第3節 市民の生涯を通した学習の推進

[1]

学習活動の充実と支援

心の豊かさや生きがいのための学習、新たな知識や技術の習得等、学習への市民のニーズは多種多様になってきており、市民の生活向上や自己の充実・啓発のため、生涯学習関係機関との連携の必要性が増してきている。

そこで、市立図書館、熊本博物館等の施設を活用し、市民のニーズに対応した多種多様な学習機会を提供し、学習の成果を豊かな地域づくりに生かせるシステムの構築を推進する。

(1) 市立図書館の充実

- 第三次熊本市子ども読書活動推進計画
 - 策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

しかし、子どもたちを取り巻く社会は、インターネットや携帯電話等により、いつでもどこでもゲームやSNSを利用できる環境にあり、このような環境の中で、読書への関心が薄れ、読書離れが進むことが懸念されている。

本市においては、平成17年に「熊本市子ども読書活動推進計画」、平成22年に「第二次熊本市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進するため、家庭、地域、学校、行政が連携協力しながら様々な取組を行ってきたが、第二次計画は、平成27年3月をもって満了となった。

そこで、これまでの成果と課題を検証するとともに「熊本市第6次総合計画」や「熊本市教育振興基本計画」、「熊本市生涯学習指針~『わくわく学習都市くまもと』の実現を目指して~」等を踏まえ、今後、5年間にわたる施策の基本方針と具体的な方策を明らかにする「第三次熊本市子ども読書活動推進計画」(平成27年度~31年度)を策定した。

〇 基本理念

本市では、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、関係機関、団体、事業者等が緊密に連携・協力しながら、積極的にそのための環境を整備し、豊かな感性や創造力、表現力などを備えた子どもをはぐくんでいく。

○ 基本方針

・家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進

家庭をはじめ、地域や学校などにおいて、様々な機会をとらえ、子どもたちが自然に読書に親しむきっかけづくりと読書習慣の基礎づくりを進めるとともに、読書習慣を維持する取り組みを行う。

- ア 家族で一緒に読書を楽しむ読書活動の推進
- イ 中学生・高校生の関心を引く講演会やビブリオバトル等の開催
- ウ 朝の読書活動等本に触れる機会の充実 等
- ・学校図書館と市立図書館等の機能充実

身近な読書活動の拠点となる学校図書館と市立図書館等の資料の充実を進め、連携を維持するとともに、子どもたちに快適な読書スペースを提供することにより、子どもたちの豊かな読書環境を確保していく。

- ア 図書資料の充実
- イ 学校図書館支援センターによる実践事例等の情報提供
- ウ 快適な読書スペースの確保 等
- ・市民協働による子どもの読書活動の推進

ボランティアの育成や活動体制の整備をすすめるとともに、地域での新たな活動機会等の提供 に取り組み、市民協働による子どもの読書活動を推進する。

- ア 各種ボランティア養成講座の開催
- イ ボランティアの主体的な活動や情報の共有ができる体制の整備
- ウ 団体への絵本や児童書の貸出 等
- ・子どもの読書活動の広報・啓発活動の推進

「子ども読書の日」や「読書週間」を中心とした読書推進事業や、子どもたちへの様々な機会を捉えた啓発活動の充実等を通じて、子どもから大人まで幅広い市民に対し読書活動への理解と協力を促していく。

- ア 図書館ホームページや市政だより等による情報提供
- イ 「こどもの読書週間」にあわせた多様な行事の開催
- ウ 読書感想文コンクール等の啓発事業の開催 等

■ 子どもの読書環境の整備

子どもの「読書離れ」が指摘される中、平成14年度から市立図書館及び15公民館図書室と学校図書館で使うことが出来る共通利用図書カードの運用を始めたほか、16年度からは図書館の物流システムを開始するなど、学校図書館と連携した読書環境の整備を進めている。

この他、乳幼児向けの良書を紹介した冊子「このほんよんで」の配布及び掲載図書を子育て支援 センター等に配置し、また、小学校低学年向けの良書を紹介した冊子「としょかんへおいでよ」の 小学校1年生への配布及び掲載図書セットの学校への貸出並びに中高学年向けの良書セットの作成 及び配本・貸出を行うなど、子どもの読書環境の整備に努めている。

■ ボランティアの育成

ボランティア活動に必要な基礎知識や技能、技術の習得のための講座を開催している。

コース名	学習内容 日 時		場所	受講者数
おはなしボランティア養成 講座	地域等における子ども読書活動 推進のため、絵本の選び方や持	5/22~6/26 6回 木曜日 10:00~12:00	市立図書館	20
学校ボランティアのための 読み聞かせ講座	ち方など、読み聞かせの基礎知識や技術等について学ぶ講座	7/9 水曜日 10:00~12:00		25
紙芝居の演じ方講座	紙芝居の抜き差しや発声など、紙 芝居を演じるための基礎知識・方 法等について学ぶ講座	7/3~7/17 3回 木曜日 10:00~12:00		15

※ コース名、学習内容等については、平成26年度の実績

■ 図書館資料の充実

○ 資料の選択・収集

一般書、児童書、参考資料、郷土・行政資料等の各分野の基本資料の収集はもとより社会経済情勢の繁華に即応しながら、地域の情報発信機関として図書館づくりを行っていく必要性から①産業能力開発支援関連資料②外国語資料③児童書④郷土・行政資料の4つの分野については重点的に収集している。

○ 資料の整理

閲覧室の開架は資料更新による新鮮度維持に努め、複本整理などにより除籍した資料はリサイクル図書として無償配布し、市民の読書活動に活用されている。また、資料の所在の把握と資料データの正確性を確認するための蔵書点検は毎年実施して資料の整理に努めている。

○ 資料の保存・継承

郷土、歴史、芸術、科学技術等の記録・資料は、後世に伝えて新しい文化の創造の糧にしていく役割があるとの観点から、資料の保存、継承に努めている。

■ 図書館サービスの拡充・強化

○ 視聴覚及び館外サービス

図書、雑誌、視聴覚資料を収集、整備して市民の利用に供しているほか、視聴覚資料の社会教育団体等への団体貸出、移動図書館による巡回貸出、学校・地域等への図書の団体貸出を行っている。また、植木図書館、城南図書館、とみあい図書館、くまもと森都心プラザ図書館、15ヵ所の公民館図書室や男女共同参画センターはあもにい、議会図書室とネットワークを組み、どこの図書館(室)でも貸出し、返却、予約図書の受取りなどができるように連絡調整を行いサービスの充実を図っている。

○ 資料・情報提供サービスの充実

図書館ホームページの開設やインターネットを活用した図書の検索、貸出予約、Webレファレンス事例集及びSDI(キーワードを登録するとその資料の最新情報をメールでお知らせする)、BDS(図書盗難防止装置)の設置、子どもカウンターの設置等、サービスの拡充に努めている。

○ 利用者対象別サービスの充実

障がい者に対する図書の郵送貸出、高齢者に対する大活字本などの充実、外国人に対する館内 案内板を英語併記に変更し、一般閲覧室と児童室に外国語コーナーを設置している。

○ 多様な学習機会の提供

市民の自主的、自発的な学習活動を支援するため、おはなし会、図書展、図書館講座、日曜映画会など自主事業を開催し、多様な学習機会の提供に努めている。

<平成26年度自主事業>

自主事業の内容	開催回数
読書啓発事業(おはなし会、紙芝居、 人形劇、ビブリオトーク等)	84回
日曜映画会、子ども映画会、特別上映会	33回
図書展	6回
童話コンクール	1回
図書館講座	4回
ボランティア養成講座	3講座
リサイクル図書配布 (大リサイクル市開催 3/7・3/8)	通年



「図書館に森をつくろう」の様子

■ 推進体制の充実

○ 広報活動の充実

市民の図書館に対する理解と関心を高め、新たな利用者の拡大を図るため、広報誌等の定期的な刊行、図書館ホームページの内容拡充、地域情報誌による図書館活動のPR等、広報活動を強化し、情報提供機能や内容の充実に努めている。

○ 推進組織の充実

予算、服務、施設管理等を行う総務班、企画、調整等を行う企画班、市全体の図書資料の選書等を行う図書資料管理班、館内・館外サービス等を行う総合サービス班の4班体制により、図書館業務の効率化と市民サービスの向上に努めている。

(2) 熊本博物館の充実

展示活動、教育普及活動、資料の収集保存及び調査研究、プラネタリウムの投映等を行い、市 民の利用に供している。子どもたちの体験活動やものをつくる喜びを体験する機会を充実させる とともに、市民の問い合わせに応じて相談業務なども行っている。

■ プラネタリウム

リニューアルのため一時休止していたが、平成26年4月から再開。平成27年度は、7月から投映休止(全館休館)。

- 規 模 ドーム直径16m 180席
- 機器構成 光学式投映機

全天デジタル映像システム



■ 子ども科学・ものづくり教室等

楽しく活動しながら科学の不思議にふれ、「ものづくり」等の体験の場を提供する目的で、学校 休業日や夏休みなどを利用して「子ども科学・ものづくり教室」を実施している。平成25年度は 塚原歴史民俗資料館1会場で、平成26年度は熊本博物館特別展示室と塚原歴史民俗資料館の2会 場で開催した。平成27年7月からは全館休館に伴い、塚原歴史民俗資料館等で開催予定。

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
子ども科学・ものづくり教室 参加者	3,922 人	4,443 人	11,083 人	374 人	1,033 人

※ 平成25年度は塚原歴史民俗資料館にて事前申込による「定員制」で、自由参加は1回のみ

<平成26年度各種講座・教室及び館外活動の例>

	行 事 名	内容
講座	各種講座	考古学講座・古文書講座・民俗学講座・動物学講座
• 教	天文教室	季節の星座や天文現象等の解説
室等	指導者講習会	教師を対象にした理科・社会科の現地研修等



子ども科学・ものづくり教室



企画展関連の講演会(考古)

■ 展示会

- 企画展(平成26年度は特別展示室で開催) ※()内は分野名
 - ・のぞいてみよう!身近な草花(植物) ・南洋への憧れ〜熊本博物館収蔵海外資料展(民俗)
 - ・ここがおもしろい!昆虫いろいろ(動物) ・鳩太郎がゆく! 肥後藩士 吉田鳩太郎が見た幕末維新(歴史) ・江戸の化粧術(メイクテク)〜武家婚礼化粧道具を中心に(美術工芸)
 - ・稲荷山古墳の出土遺物(考古) ・博物館のお仕事展(保存科学) ・しってるカイ?くまも との軟体動物化石展(地質)
- ロビー展
 - ・熊本博物館と黒川紀章(保存科学) ・藤崎台のクスノキ群(植物) ・特別史跡 熊本城跡 (考古) ・熊本城跡と熊本博物館(考古・保存科学)

■ 定例展・共催展

- 定例展
 - 肥後しゃくやく展
- 〇 共催展
 - ・肥後朝顔展 ・市科学展 ・県科学展・発明工夫展

■ 学校教育支援事業

博物館が有する価値ある収蔵資料や学芸員の専門的な知識・技能を、学校での学習指導(授業) に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めることを目指すもので、主に小学校の社会 科や理科の授業に学芸員をゲストティーチャーとして派遣している。

平成26~27年度は、小学校2校(モデル校)で実践・検証を行う。

この事業で活用する冊子「博物館利用の手引き:2014」は、モデル校以外においても授業改善の一助になるものと考え、平成26年6月末に熊本市内の全小中学校に配布済み。平成27年度から小学校で使用する社会科・理科の教科書が変更になったため、「手引き」も改訂して配布する予定。

■ 塚原歴史民俗資料館

古文書・考古学の通年の講座の他、拓本・土器修復などのバックヤード体験講座、子どもを対象とした勾玉づくりや巴形銅器のレプリカ作り、原始機を使った織物作り等の体験教室の充実を図っている。

(3) 社会教育関係団体への活動の支援

青少年育成団体の活動の活性化を図るため、運営費の一部助成や指導を行っている。 熊本市PTA協議会 (構成団体:137単位PTA)

(4) 熊本市・サンアントニオ市交換留学生(高校生)派遣及び受入事業

熊本市の高校生をサンアントニオ市に派遣、またサンアントニオ市の高校生を熊本市に受入することにより、生徒間の国際理解を促進するとともに、国際社会に貢献できる人材の育成並びに両市民の友好親善及び相互理解を進める。

○ 派遣

- ・期 間 平成27年8月から10ヶ月以内
- ・対 象 熊本市立必由館高校から2人、熊本市立千原台高校から2人
- ・留学先 セントアンソニー高校へ2人、インカーネートワード高校へ2人
- 事業開始 平成4年度

〇 受入

- ・期 間 平成27年7月から平成27年11月
- 対象 セントアンソニー高校から1人
- ・留 学 先 熊本市立千原台高校へ1人
- 事業開始 平成4年度